

## 県内各地域の農業・農業者の動向報告（9月）

農産園芸課生産指導係

### ○学校給食米「うまさだち」の収穫祭を開催

四国中央市地産地消推進委員会(篠原一志会長)は8月26日、学校給食米「うまさだち」の収穫祭を同市土居町蕪崎で開催し、市内小学生児童ら約400人が参加した。

この収穫祭は、学校給食による地産地消の推進と児童への生きた食農教育の実施を目的に開催しており、今年で13回目を迎える。

当日は、4月に児童らが田植えした水稻を収穫し、昔ながらの伝統農具「足踏み脱穀機」での脱穀や「とうみ」での選別、一升瓶での米つき、「縄ない機」によるわら縄づくりを体験した。

また、体験後の「おにぎりパーティー」では、新米を自分でおにぎりにして試食した。

参加した児童らは「ご飯になるまで大変だとわかった。給食を残さず食べたい」と話していた。

同市では、学校給食米「うまさだち(商標登録)」として、県特別栽培農産物等認証制度で認証されたコシヒカリやにこまるを約36ha栽培しており、収穫した米は学校給食に使われるほか、市内の産直市で販売される。



(四国中央農業指導班)

### ○農林水産研究所と愛媛大学大学院農学研究科が合同研修会を開催

農林水産研究所と愛媛大学大学院農学研究科は8月28日、愛媛大学農学部で合同研修会を開催し、研究者、県内企業、高等学校教諭、県関係者など132名が参加した。

同研修会は、研究員間の連携強化と産学官の連携による新たな市場開拓やイノベーションの創出を目指した取組みで、当日は、話題提供や分科会による研究発表のほか、大学や県の研究機関における最新の研究成果や県内企業が開発したスゴ技・すご味等について、パネル・実物展示を行った。

参加者は、最新の研究内容や害獣対策用「ハンティングマスター」などの新技術・新商品等について、開発担当者と熱心な意見交換を行い、有意義な交流の場となった。



合同研修会



研究成果・新商品等の展示

(農林水産研究所 企画環境部企画・新品種戦略室)

## ○東温市井内地区の農事組合法人が試験的にシキミの集出荷を実施

(農)サンライズいうち(代表理事 角谷茂昭、組合員10人)は8月29日、JAえひめ中央三内支所にシキミ180束を初めて出荷した。

これは、高齢化などでシキミの生産・出荷が困難となりつつあることから、産地の維持を図るため、将来的に同法人が生産・出荷業務に取り組むにあたって試験的に実施したもの。

選別や摘葉、束づくりなど出荷・調整作業には、法人の役員2人に地域の高齢者4人と地域おこし協力隊の計7人があたり、市場ニーズの高い小束に仕上げた。同法人は、市場の評価や出荷・調整作業の効率化に向けた検証を行いながら、引き続き、試験出荷に取り組み、平成31年度から法人の事業として実施する計画である。

この取組みは、地域の生産者やJAからの期待も大きく、シキミ産地の維持にもつながることから、地域農業室としても引き続き支援していくこととしている。



(農)サンライズいうち：平成29年3月に地元農家が出資して設立した農事組合法人。栽培品目は水稲であるが、地区内から耕作及び集出荷作業に対する要望が強い「シキミ」の取組みも視野に入れている。

(中予産業振興課 地域農業室)

## ○西予市で「給食の地産地消」について意見交換!!

西予生活研究協議会は8月30日、西予市教育保健センターで食農教育連携会議を開催した。同会議は、栄養士や直売所関係者、農業関係者等で構成し、食農教育活動や地産地消の推進に取り組んでいる。

当日は、学校給食への地産率アップの取組みや児童生徒への食育活動について、各機関から報告があった。

西予市では、今年4月に統合新設された“せいよ西学校給食センター”で、石城農産加工組合の手作り味噌や松葉学園の農産物を給食に使用するなど新しい取組みも始まっており、今後は“魚の切身”など水産物も利用したいとの意見がでるなど、学校給食で地産地消を進めるための活発な意見交換を行った。



今後、西予農業指導班では地産地消を推進するため、生産者と消費者の産直活動を支援する。

(西予農業指導班)

## ○うま特産のさといも、作柄良好

JAうまと四国中央農業指導班は8月31日、本年作のさといもの作柄を把握するため、豊岡・土居地域の29圃場で試験掘りを行った。



圃場ごとの収量と品質調査を実施した結果、全般的に収量は良好。特に、市内栽培面積(181ha)の7割を占める**全期マルチ栽培**の圃場では、平年に比べ700kg/10a多い、4,100kg/10aが見込まれる。また、一部割れ芋が見られたが、全体としては丸い形状の芋が多く、品質は高い傾向であった。生産者は「今年は、台風による被害がなく天候にも恵まれ、全体的に順調な生育であったため、昨年と比べ作柄は良好」と話し、今年のさといもの出来映えに手応えを感じていた。

JA うまは、今回の試験掘り等を踏まえ、平年並みの9月中旬からの出荷開始を予定している。



#### 全期マルチ栽培：全生育期間を通じて畝をマルチで被覆する栽培方法

(四国中央農業指導班)

#### ○青年農業者と女子青年が水仙の里づくりに挑戦

八幡浜市青年農業者連絡協議会(会長：兵頭信耶、57人)は9月2日(土)、同市磯津地区の国道378号線沿いの休耕田で、市の花となっている水仙の球根を植え付けた。

この活動は、「磯崎水仙プロジェクト」として平成19年から耕作放棄地の有効活用と地域活性化を目指して取り組んでおり、今年で7年目を迎える。

当日は、青年農業者26人と地元の女子青年14人のほか、八幡浜市長や同地区の公民館長も参加し、100㎡の畑に2,000球の球根を植え付けた。

作業終了後は、バーベキューを囲み、農業や地域活性化などについて懇談し、女子青年との交流に会話も弾んだ。

同地区の水仙は、寒さが厳しくなる12月から1月に見頃を迎え、甘い香りと白い花が訪れる人々の目を和ませる。

今後、同プロジェクトでは、1月頃に水仙の花見を計画しており、地域農業室も関係機関と連携しながら、青年農業者活動の支援に取り組む。



(八幡浜支局 地域農業室)

## ○新たな事業の展開を期待、大洲市が6次産業化異業種交流会開催

大洲市は7日、商品開発等の事業開拓や販路開拓を目的とした「おおず6次産業化異業種交流会」を同市リジェール大洲で開催した。

交流会には、市内の農林漁業者のほか、スーパーや飲食業者等県内外の企業からおよそ60人が参加。生産者らは、6次産業化や農商工連携の取組みにつながるきっかけを作ろうと、自慢の生産物や加工品を積極的にPRし、交流・意見交換を行った。

地域資源のあまごやトマトの加工品を出展した河辺の未来を考える会の梅木健一会長は、「商品の販売アイデアをいただいた。市内で同じように頑張っている人たちがいて、その方たちとも情報収集や交流ができて良かった」と話した。

また、オイシックス株式会社の小堀夏佳さんが「売れるヒット商品の作り方を伝授します」と題して講演。自身が携わった企画を紹介するとともに、「いつ、誰に、どういう思いを込めて売りたいのか」という作り手の思いを伝えることが大事と話した。

大洲農業指導班では、今後も6次産業化による地域農業の活性化に向け、関係機関とともに支援活動を進める。



アドバイスを  
受ける出展者

## ○吉海町の子どもたちが農業体験！

今治市吉海町のJA直売所「しんせん市場」(会長：柳原能夫)は9月8日、同直売所が管理する共同菜園に、吉海認定こども園児14人と吉海小学校3年生24人を招き、農業体験を行った。

当日は、秋晴れの中、ジャガイモとキャベツ苗の植え付けや秋野菜の種まきを行った。

子どもらはダイコンやニンジンなどの小さな種の種まきに苦労しながらも、懸命に農業体験を楽しんだ。

今回植えた野菜は、子どもら自身が収穫し、12月には同直売所の「元気もりもり野菜市」で販売する予定。

同直売所では、地元食材の良さを子どもたちに伝えるため、今後も食農教育を予定しており、しまなみ農業指導班も引き続き支援する。



大きく育つんだよ！



体験終了後みんなで記念撮影

(しまなみ農業指導班)

## ○東予地区の青年農業者が交流を深める

東予地区(四国中央、西条、今治)の各青年農業者連絡協議会は9月8日、西条市内で、新規就農者等交流会(東予ブロックリーダー研修会)を開催し、同協議会員など33人(うち3年未満の新規就農者6人)が参加した。

これは、地区内の新規就農者と青年農業者が情報交換することにより、相互の技術向上と地域農業のリーダーとしての資質向上を図ることを目的に実施したもの。



当日は、県農業指導士2人がそれぞれの農業経営について講話したほか、家族で観光農園を営む就農4年目の青年農業者が日頃の経営体験について発表し、交流を深めた。

実体験を踏まえた内容に参加者らの関心は高く、指導士からの「農業をやる上で、自分のしたいことをとことんやるのが大切」「経費削減の経営努力が必要」など先輩農業者としてのアドバイスもあり、有意義な研修会となった。

同協議会では、今後も様々な交流会を開催し、東予地区青年農業者とのつながりを深めることとしている。



農業指導士による講話



ぶどう狩り体験

(東予地方局産業振興課 地域農業室)

### ○どぶろくオーナーが晴天の中、稲刈りを体験！

「どぶろく工房・農家レストラン由紀っ娘」(店主：藤井省三、由紀枝)のどぶろくオーナーやその家族38人は9月9日、東温市下林の水田で稲刈りを体験した。

これは、同工房が平成22年にどぶろくオーナー制度を開始した当初から行っているもので、今年で8回目。

当日は、5月にオーナーらが田植えをした稲を鎌で刈り取り、稲木掛けまで一連の作業を体験。参加者らは黄金色に実った稲穂に歓喜していた。また、作業のあとは、店主手作りのいもたきや地元の食材が詰まったお弁当に舌鼓をうち、農村での一日を満喫した。

収穫した稲は、お米やどぶろくとなって、オーナーのもとに届けられる予定で、参加者らは「自分が育てたお米はおいしそう。早く食べたい」と期待に胸を膨らませていた。

同工房は、今年度から県の「えひめの農産物『ちょこっと体験！まるごと収穫！』オーナー制度」に登録し、食や農業のPRに力を入れていることから、地域農業室としてもその活動を支援する。



参加者への説明



稲刈りの様子

えひめの農産物「ちょこっと体験！まるごと収穫！」オーナー制度：愛媛県が一定の基準を満たすオーナー制度を県のホームページで県内外にPRするなどにより、農林漁業者の所得の安定化、農山漁村の交流人口の拡大を図ることを目的とする制度。

(中予地方局産業振興課 地域農業室)

## ○大西町の生産者が鳥獣被害防止対策を学ぶ

JA おちいまばり大西町柑橘部会（会長：高橋初志）は9月12～13日、同部会役員と関係職員10人が参加し、広島県三原市鷺浦町の佐木島及び島根県邑智郡美郷町で、鳥獣害防止対策に係る先進地視察研修を行った。

柑橘栽培が中心の佐木島では、約10年前からイノシシが急増し、防護柵を設置したものの被害が減少しなかった。そこで専門家の指導のもと、正しい柵の設置方法を学んだところ、被害の減少につながっている。地元農家代表からは、「とにかく柵をすればイノシシ被害は防げると思っていたが、被害は減らなかった。イノシシが来ないように、餌場のない環境づくりや正しい防護柵の設置とその後の管理が大切」との助言があった。

また、美郷町では、鳥獣害防止対策の専門家である井上雅央氏が「自分や家族の労力を考え、きっちりと園地管理できるよう農業経営の視点から考えること。100歳になっても楽しく畑に行けるような地域づくりを行って欲しい。そのためには女性の力が必要」と話した。また、地元グループの代表者からは、「井上氏との出会いをきっかけに鳥獣害対策について勉強し、自分たちができる対策等について情報交換し、身の丈に合った活動をしている」との話があった。

参加者らは、「まずは、自分の園地対策を考えるとともにみんなでも対策を考えていきたい」と話した。

今治支局地域農業室は、今後も生産部会等の鳥獣害防止対策活動を支援する。



佐木島の柑橘農家より園地説明



管理できる防護柵について  
井上氏より指導

（今治支局 地域農業室）

## ○今年で11年目、大洲市上須戒の「観光いも園」オープン

大洲市上須戒地区の古宅守男氏ら認定農業者3人は9月13日、地元の保育園児を招待して「上須戒観光いも園」の開園式を行った。

当日は、関係機関・団体からの来賓者を交え、園児15人がさつまいもの初掘りを体験したあと、ふかし芋の試食を楽しんだ。

同園は、同地区の認定農業者3人が消費者との交流を図り、農地の荒廃防止と地域の活性化に繋げる目的で毎年開園しているもので、今年で11年目を迎える。

約1haの圃場で種いもの植付けからいも園の管理運営までをすべて共同で行っており、8月中旬に開園した「一の瀬梨狩り園」と合わせて、地域の体験型観光の一翼を担っている。来場者は、1区画（12株）1,300円で芋掘りを楽しめ、掘った芋は自由に持ち帰ることができる。原則的に土、日、祝日のみの営業で、芋の無くなる10月中旬頃まで開園し、昨年同様約4,500人程度の来園者を見込んでいる。

大洲農業指導班では、今後も体験型観光農業の支援を行うとともに、農地の荒廃園対策、認定農業者への農地集積を進める。





(大洲農業指導班)

### ○大洲小学校で後継者が秋冬野菜の植付け体験支援

大洲市青年農業者協議会（会長：井上博人、会員17人）は9月13日、大洲小学校で「秋冬野菜の植付け体験」を開催し、2年生の児童52人が参加した。

当日は、農業後継者らが野菜の種や苗の植え方を説明した後、校内の菜園にダイコンやラディッシュ、ブロッコリー、ハクサイなどを植え付けた。

植付け体験をした児童は「ダイコンは大きいのに種がとても小さくて驚いた。生長するのが楽しみ」と期待に胸をふくらませていた。

今後、児童らは水やりや草引き等の管理を続け、12月には収穫し、保護者とともにカレーライスを作る予定。

大洲農業指導班は、今後も農業後継者と子どもとの交流を通じた食育活動を支援し、地域の食と農を支える担い手育成に取り組む。



種のまき方を教える後継者

(大洲農業指導班)

### ○キウイフルーツ選果場の「SQF」認証に向け第一次審査を実施！

JA 東予園芸は9月14日、JAや西条市、県産地育成室の関係者15人が出席し、食品としての安全・品質管理システムである「SQF」認証の第一次審査を受けた。

「SQF」は国際的な認証規格で、今後、ゼスプリ社の扱うキウイフルーツ（Hort 16A、サンゴールドなど）の出荷は同認証取得が必須となることから、同JAキウイフルーツ選果場での認証取得を目指し、今年1月より毎月専門家の指導のもと必要な書類等の作成に取り組んできた。



当日は、審査官が、「SQF」の規定に則った運用かどうか、ハザード分析書類等の整合性はどうかなどについて質疑応答し、最後に指摘事項の報告があった。

今後は、選果場の稼働状況を確認しながら実施する第二次審査(11月7～8日)に向け、指摘事項を修正するとともに、選果場での運用シミュレーションを重ねる。

なお、本認証の取得は、新ふるさとづくり総合支援事業の活用により、関係機関がチームとして連携して取り組んでいる。

## SQF : Safe Quality Food の略で、食品の安全や品質を管理する仕組み

(東予地方局産業振興課 産地育成室)

### ○西条・四国中央の農業女子が松山で軽トラマルシェを開催

西条市、四国中央市の若手女性農業者グループ「たべとうみん」(代表 藤岡ゆかり)は9月14日、コープひさえだで店頭農産物マルシェを開催した。

当組織は、これまで地元のマルシェやイベントに出店してきたが、今回は「松山でマルシェをしてみたい」という会員の希望により、初めて県と包括協定を締結しているコープえひめでマルシェを開催した。

当日は、愛媛ダイハツ販売(株)協力のもと、女性の目線で誕生した軽トラックを使った軽トラ市として出店し、里芋やキュウリ、ブドウ、タマゴのほか、柑橘や米、タマゴの加工品など東予地域の農産物を販売した。

会場では、開店早々から、お客さんが集まり、農業女子と会話を楽しみながら安心・安全にこだわって生産した商品を買って求めている。

「同じ働く女性として農業に取り組む姿に共感します」「料理を作る目線で食材を提供してくれるのがありがたい」との消費者の声に、メンバーらは「直販は生産したものが誰に届くのか見えるのでよい」「これからも、より多くの人に食べてもらえるよう活動範囲を広げていきたい」と意欲を見せていた。

当組織では、今後もコープえひめの産直市コーナー出店やマルシェ開催を計画しており、活動を通して東予地域の頑張る農業女子の活動をPRするとともに、地産地消を推進する。



たべとうみんのメンバー



お客様との会話を楽しむメンバー

たべとうみん：農山漁村男女共同参画強化事業の受講生のうち自家生産物の販促に関心のあるメンバー11人で平成27年に結成した組織。販売活動を通じて農業・農村・農産物の魅力発信を目的に活動しており、マルシェへの参加やホテルへの食材提供を行っている。

(東予地方局産業振興課 地域農業室、四国中央農業指導班)

### ○ICTを活用したサル捕獲実証展示を設置

四国中央農業指導班は9月14日、四国中央市土居町天満地区で地元農家や関係者12人が参加してニホンザル等被害対策用檻の実証展示圏を設置した。

天満地区では、8月下旬から果樹への被害が見受けられ、防除対策に苦慮している。



そのため、本実証では「鳥獣害防止新技術等実証展示事業」を活用し、移動式大型捕獲檻と遠隔監視装置を用いて群れごとのサルを大量捕獲ができる新技術を実証展示する。

参加者は「サルの出没に合わせ適切に設置・運営することにより、効率よくニホンザルを捕獲でき、被害軽減に繋がる」と期待をよせていた。



(四国中央農業指導班)

### ○おはぎづくりで城川の食文化を伝承！

城川町生活研究協議会（会長：中平ウメ子）は9月15日（金）、城川小学校3年生の児童を対象に第1回えひめ食文化普及講座を開催した。

本講座は、城川町の子どもたちに地域の食材を使った食文化や技術の伝承を行うとともに、手作りの味や食に対する理解を深めることを目的としている。

当日は、同協議会員4人が児童におはぎの作り方を教えながら、城川町産のもち米を用いた青のり、きなこ、あんこの3色おはぎを作った。もち米であんこを包む作業に苦戦する児童もいたが、試食の際にはみんな笑顔で「美味しい」と話していた。

試食後には、米や米食文化について関心を高めるため、西予農業指導班がクイズを交えて米ができるまでの話などをした。実習後の意見交換では「楽しかった」「家でも作ってみたい」などの声があがった。

本講座は3～6年生の各学年を対象にそれぞれ開催を予定しており、城川の食と農をテーマに、順次10～11月に開催する。

指導班では、農山漁村女性の食農教育活動をさらに充実させ、地域農業への関心が高まるよう活動支援に取り組む。

(西予農業指導班)



### ○新規就農者がパソコン農業簿記導入に意欲！

地域農業室は9月20日、南予地方局で第4回ニューファーマー講座を開催し、新規就農者20人が参加した。

これは、農業を始めて間もない新規就農者の技術力と経営管理能力の向上を目的に年6回開催しており、今回はパソコン農業簿記がテーマ。

当日は、簿記ソフト会社の講師が青色申告と複式簿記の重要性や、ソフトを利用した記帳・仕訳・分析・申告書作成等一連の流れと操作について説明した。

参加者らは、記帳時の留意点や農業簿記ソフトの導入に関する質問をするなど、農業簿記導入に意欲的だった。

地域農業室では、今後2回の講座（みかん研究所公開セミナーでの研修、かんきつの剪定）を計画している。

(南予地方局産業振興課 地域農業室)



## ○久万高原町産桃太郎トマトのパンを新しく発売

久万高原町内で農産加工に取り組んでいる株式会社FFTと道の駅「天空の郷さんさん」内にある「s a n s a nパン工房」が連携し、このほど町内産桃太郎トマトを使用したパンを新発売した。

同商品は、町内産 100%のトマトピューレをパン生地に練り込んだこだわりの地域ブランドモデルとして開発したもの。トマト塩パン(80円)とベーコンチーズのトマトパン(130円)の2種類があり、どちらもほんのり赤みのある生地でまろやかな食感が特徴となっている。テレビ番組の特集に合わせて発売したことで宣伝効果が増しており、町内農産物のブランド力向上などが期待されている。

今後も久万農業指導班では、農商工連携などによる新商品開発を進めて地元農産産物の需要を開拓し、来町者を呼び込んで農家所得の向上に努めていく。



ベーコンチーズのトマトパン



トマト塩パン

株式会社FFT：代表 露口宏一、久万高原町下畑野川にある農業生産法人で平成21年6月に設立。主な事業内容は林業の受託作業、農産物の生産・加工。

(久万高原農業指導班)